

総合図書館 LS セミナー 留学・語学シリーズ

留学パネルトーク＝旅行はなんか違うねんと思っているあなたへ＝ (2019.6.6)

LSが答えます！ 留学28の質問

6月初旬の留学セミナーで集まった28の質問に、総合図書館のLSが回答しました。質問を寄せてくれたみなさん、本当にありがとうございました。以下、回答者4名のプロフィールです！

- 経済学研究科 I: デンマークに交換留学
- 経済学研究科 N: アメリカに交換留学・オーストラリアに語学留学
- 国際公共政策研究科 Y: オランダに学部/大学院で交換留学・フィリピンに語学留学
- 国際公共政策研究科 K: パプアニューギニアに青年海外協力隊

Thank you!



Q1:留学してよかったこと、したことが今役立っていることとかありますか ①

- I: ポジティブな意味で周りを気にせず行動するようになった
- N: 英語でのディスカッションに恐怖心を（留学前ほどは）抱かなくなりました。あと、「外国人」の気持ちがわかりました。

Q1:留学してよかったこと、したことが今役立っていることとかありますか ②

- Y：私の当たり前前は世界の当たり前ではないと、日常生活から感じるようになりました。色々なことに批判的になりました笑
- K：そこまで外国語能力がなくても外国で生活できると実感できたことです。

Q2：留学したことで一気に世界観が広がった！と感じたことは何ですか？

- N：正直私は世界観が激変したという感じはしません。ただ、語学力が全てではなくて、ある程度専門的な知識やスキル（例えば数学ができる、統計ソフトを使いこなせるとか）があれば人の役に立つことができるというのは強く感じました。
- Y：世界にはいろいろな人がいて（見た目も、言語も、考え方も、宗教も、おいしいと思う食べ物も!）、逆に私は私でいいのだなと思うようになりました。なにかにつけ人と比べて生きるのをやめようと思いました。
- K：日本での常識（外出時に靴を履く、水道水が飲める、同調する）が通じない状況でも自分が楽しみながら生活できることに気づいたことです。

Q3：留学先で一番しんどかったこと ①

- I：想像を越えていたのは部屋を水浸しにされたこと。精神的に思っていたより辛くなることはなかったと思います。
- N：自分の英語力がとても低いということ、発音やアクセントもコミュニケーションに支障をきたすくらいのレベルだったということに気づかされたことです。

Q3：留学先で一番しんどかったこと ②

- Y：大学院のとき、自分の専門分野と少し異なる単元のレポート課題の連続に、「わたしなにしてるんやろう？」とモチベーションが完全になくなってしまったことです。学問の世界に身をおくことの辛さを感じました。
- K：「支援」する立場である自分よりも現地の方のほうが優秀な場面がたくさんあったことです。

Q4：留学に行ってみて、想像と違っていたこと

- N：自由闊達に議論がおこっている授業ばかりではないということです。学生もまじめな人もいればそうでない人もいます。考えてみれば当たり前のことですが・・・。
- K：日本のメーカーの知名度の高さ。
- Y：でも日本のアニメは全く有名じゃない。笑

Q5：長期留学後大学4年と5年で卒業した人、それぞれの良いところ悪いところを聞いたことがあれば教えてください。

- I：5年で卒業した人で後悔している人はあまりいませんでした。一方で、4年で卒業した人は就職活動も単位集めも苦労していたように思います。
- N：どちらも自分の選択に後悔している人はそれほど多くない印象です。月並みですが、とことん考えて決断することが重要なのでしょうか。外からみていると、学費が1年分かかる、ということ以外はそれほど大きな問題ではないように見えました。

Q6：阪大のプログラム以外での語学留学のプログラムはどのようなものがありますか。

- Y：語学留学のあっせんをする民間業者があります。また、大学の生協で行き先やプログラムを探すこともできますし、自分でオンラインでコンタクトをとれる語学学校もあると思います。調べてみてください！

Q7：学部留学と院留学の違いについて（条件は厳しくなったりするのかな？）

- N：入学するための要件に絞って回答します。英語の要件は厳しくなることが一般的なようです。ただ、それ以上に重視されるものが違うような気がします。例えば、経済学のPhDでは数学能力が重視されます。あと、これまでどういう先生のもとで勉強をしてきたか（推薦状が誰か）というのを重視しているような印象を持っています。研究経験もあれば評価されるようです。修士号のプログラムはまた違うかもしれません。
- Y：同じ大学に戻りましたが、院留学のときはやはり留学生というより研究者として扱われました。研究がメインの留学になると思います。

Q8：英語圏で一番安く長期留学できる国はどこですか

○I：アメリカ中西部

○N：アメリカの田舎でしょうね。物価が安いので。ただ、授業料が高いことが多いので、授業料を支払う必要があるかによって大きく違ってくると思います。

※ 個人の見解です！！！！

Q9：語学留学で行った先が日本人が多かった、と話していましたが、日本人の少ない所（どこ？）に行くべきですか。

- Y：生協や大学のプログラムを受け入れている語学学校や留学先の大学は、ある程度日本人が多いことを見越しておくの良いと思います。私は勉強がしたかったのですが、バカンス感覚の留学生もいたなあと今になって思います。

Q10：交換留学の志望書は1校に対してどれくらい？

- I：志望理由書1枚と授業計画書1枚くらいだったかと。募集要項を確認してみてください
- N：書類の分量は毎年変わるかもしれませんが、私が応募したときは志望理由書と勉強計画書と受講する予定の授業一覧表、は提出したと思います（ほかにもあったかもしれませんが忘れてしまいました）。なお、志望理由書と勉強計画書はそれぞれA4一枚、日英両方でかきました（つまり一校あたり4枚）。準備にかかった時間は2週間くらいだったと思います。

Q11：留学先に日本人が多くいて良かったこと、悪かったことなどありますか？

- I：英語でコミュニケーションせざるを得ない状況にできたのはよかったと思います。ただ、日本人が少ない場所では日本食などへのアクセスが難しくなります。
- N：ロサンゼルスは日本人がとても多かったです。街レベルで日本人が多いことのメリットは普段日本で暮らしているときに接するもの（日本食や日本人の美容院など）にアクセスしやすいということです。大学内に日本人が多いことのメリットは、日本企業が就活生を採るために説明会を大学で開催してくれるため（日系企業に就職するための）就職活動がしやすいということ、帰国後も直接会って話す友達ができやすいことだと思います。デメリットは英語を話す時間が減ること、異文化体験はしにくいこと、でしょうか。メリットとデメリットのどちらが大きいかは留学の目的によると思います（語学能力を高めるためならデメリットは大きく、長期的な人脈づくりという面ではメリットは大きいと思います）。

Q12 : 交換留学では費用はどのくらいかかりましたか？

- I : 1ヶ月あたり、日本での一人暮らしにかかる費用＋奨学金8万
- N : 正確には覚えていませんが、一か月10万円の奨学金でほぼ収支ゼロだったと思います。ただ、留学前のビザの手続きや航空券代まで計算すると多少赤字かもしれません。

Q13:費用は親に出してもらいましたか？自分で出しましたか？

- I: 普段の仕送りの額だけそのまま出してもらいました。
- N: 航空券代と阪大に払っている学費は出してもらいました。
- Y: 飛行機代と、最初の手続きに必要なだった事務手数料は出してもらいました！

Q14：費用はどれくらいかかった？

- N：約一か月10万円（奨学金）です。
- K：（青年海外協力隊）実費はあまりかかりませんでした。研修費用、渡航費、活動費用、現地生活費などが支給されます。

Q15 :海外の大学で学ぶことと日本で学ぶこと との大きな違い。(英語力の上達面以外で)

- I : 授業内容に大きな差はありませんが、学部レベルにおいては単位をもらうのに要求される理解度が海外のほうが高い気がします。
- N : 学部に分野によって状況は異なると思います。経済学に限って言えば、アメリカの授業は同学年の阪大の授業に比べるとやや発展的な内容を扱っていた気がします。ただ、留学する前に予想していたよりは差はないと感じました。

Q16: 留学中、アルバイトはしましたか？

- I: 現地の会社でインターンをしてお金をもらっている友人や先輩はいました。
- N: していません。
- Y: 大学院のときは大学でTAをやりました。

Q17:奨学金について。どこから情報を得たか。応募、採用された制度の数は？

- N : 阪大の交換留学の願書に「JASSOの給付型奨学金に応募しますか」という欄が（少なくとも当時は）あったのでそこで応募をしただけで、他はとくに情報収集をしていません。運よく採択されたので良かったものの、もっと情報収集をすべきだったと思います。国際教育交流センターに相談に行けばなにか情報をもらえるかもしれません。ちなみに、KOANでも海外留学奨学金の情報が多数掲載されていると思います。KOANだけでは十分ではないかもしれませんが、少なくともKOANの情報は漏らさないようにこまめにチェックするのが良いと思います。
- Y : 私も同じですが、今では企業が留学に奨学金を出しているケースも多く、それを利用すると行ける大学やプログラムの幅がめっちゃ増えるのだらうなと思います。

Q18：海外の授業の様子を教えてください

- N：授業中の質問の数はとても多かったのが印象的でした。あと、オフィスアワーもとくに試験前は学生がとても多かったです。
- Y：みんな勝手にしゃべる。手を挙げて当てられるまえに喋ってる人もいました。

Q19：家探しの方法は？

- I：デンマークでは受け入れが決まった後にHousing Foundationから寮の候補が送られてくるので、そこから選びました。
- N：寮に入りました。UCLAに応募し、抽選にかけられて住まいが割り当てられる、という感じでした。
- Y：学部の留学時は大学と提携しているNGOの斡旋があり寮に住みましたが、2年目は本当に苦労しました。同時期に世界中の学生が大学のために部屋を探すので、結局住む部屋が見つかったのは留学に行く2ヶ月前でした。留学準備で一番焦ったといっても過言ではないかもしれません。

Q20 :交換留学でGPAは関係するのか。それとも検定試験で高いスコアを取れていれば無条件で参加可能なのか？

- N : 留学先によると思いますが、少なくともGPAが全く影響がないということはないと思います。募集人数が定員を上回っている場合に限れば、検定スコアが良ければ無条件で行けるということはないと思います。どちらかということ志望理由書や勉強計画書、面接（あれば）での受け答えが重視されると聞いたことがあります。

Q21：どのくらい留学すれば外国人と普通に英語で会話できるようになりますか？

- N：「普通」や「外国人」の定義によります。日本語話者が日本語で会話するようなレベルで英語のネイティブと話すことは私は一生無理だと思いました。ある程度会話を楽しめるようになってきたのは留学が始まって6ヶ月たったくらいだと記憶しています。
- Y：たしかに、よしもと新喜劇みたいな会話は一生できないかもしれませんが、8ヶ月ほど留学した段階で人と思いきり言い争いの喧嘩をしました。そのとき、まあ第二言語としてはこのようなものかと思ったのを覚えています。

Q22：デンマークやオランダなど母国語が英語ではない国へ留学しても英語力は向上しますか？

- I：僕の英語力は向上したと思いますし、周囲の人もしているといっています。ただ、授業や他の学生との会話が英語の場合に限られると思います。
- Y：英語が母語ではない人々と英語で喋ることで、「自分の英語もこう聞こえているかもしれない」という気づきがあり、「正しい英語」よりも「伝わる英語」を身をもって学べたと思います。

Q23 : 留学した時点で、ある程度話せるようになっていたのか？それとも片言の英語でしたか？

- I : めっちゃ片言でした。
- N : 片言ではなかったと思います。ある程度センテンス単位で話せていたと思います。ただ、発音やアクセントが悪かったのでもっとも苦労しました。スピーキング能力の改善が実感できたのは6か月目くらいでした。

Q24 : TOEFL、IELTSの勉強はいつ頃から？ (交換留学で必要なスコアをとるための)

- I : スコアをとるのに3～4ヶ月はかかったと思います。
- N : 2か月くらいで目標スコアを取ったと思います。ただ、最初の一か月くらいは漫然と単語を覚えたり練習問題を解いていただけなので、とても効率が悪かったと思います。最後の2週間くらいで公式問題集の模試問題を分析し、どのタイプの問題が全体のスコアの何%を占めていて、自分はどの部分を何%取れば目標スコアに届くかを計算しました。そして、模試を解いた後はなぜ誤答してしまったのかを分析し、再発を防止するためにどういう行動（あるいは練習）が必要かをリストアップしました。それをやってからスコアがあがりました。
- Y : 大学2年の4月くらいに勉強を始めて、7月にTOEFLで84をとった記憶があります。3月には2週間でスコアを10上げる必要があり、センター試験ばりに勉強してなんとか達成しました。単語を重点的に覚えながら過去問を解きまくるのがおすすめです！

Q25：英語試験スコアの提出期限まであまり期間がなく、間に合うか不安です。。。

- N：私は2週間根詰めてTOEFLの対策をしたところスコアが13（72から85）上がりました。短期間でも対策のためにまとまった時間を取れる期間があればスコアアップも可能だと思います。とりあえずスコアが必要な場合はTOEFLなら2週間、IELTSは1か月後にスコアが返ってきたと思うので受験してみてもはどうでしょうか。ただ、TOEFLもIELTSも予約はすぐ埋まってしまうので早めに受験することをおすすめします（大学院入試のときですが、私は締め切りまでにTOEFLを受験できる会場が三重にしかなかったのでもわざわざ三重まで行く羽目になりました）。留学に興味があるなら、どのみちTOEFLやIELTSは受験することになるので、とりあえず早めに一度受験するのが良いと思います。

Q26：英語をただしゃべっているだけだと力がついている気がしません。何を意識して話す練習をすればいいですか？

- N：現地の英語の先生におすすめされたのは、TED Talksのプレゼンのうち自分が好きなものを一つ選んで、暗唱できるまで音読するという練習方法でした。先生曰く、スピーキングもインプットをしないと上達しない、とのこと。結局暗唱するレベルまで私はたどりつかなかったのですが、毎日音読してプレゼンで使われている表現を自分のなかで整理するだけでも英語で描写できるものの幅は広がったのを覚えています。
- Y：これをもっと上手く言い換えられないかな？と考えることを常に意識しています。ネイティブの友達が言った言葉のセンスがよければ、いつでも盗もうという心意気でいます。

Q27：青年海外協力隊について①資格がなくても協力隊に参加することは可能ですか。活動としては何がありますか？

- K：参加資格、派遣地域、活動内容などについては、青年海外協力隊のホームページで知ることができます。
(<https://www.jica.go.jp/volunteer/faq/>) 各募集案件によって大きく異なりますが、自分は大卒資格のみでの応募が可能な案件（教育活動）に応募しました。正直、教員として活動することへの不安は大きかったのですが、教員免許未取得者、教員経験の浅い人を対象とする派遣前研修制度への参加や、派遣中に専門家に相談できる制度を利用することで対応しました。

Q28：青年海外協力隊について②帰国前後で何が変わりましたか。語学力はどれくらい伸びましたか？

- K：語学能力については派遣前の研修や現地での活動を通して養うことができます。自分の場合、TOEICやIELTSといった英語の資格試験のスコアはアップしませんでした。苦勞しながらも自分の考えを伝える能力はかなり向上したと思います。派遣前後では「外国（途上国）」に対する認識がより柔軟になったと思います。確かに、現地と日本とでは人々が置かれる状況が大きく異なる場面（住む所、受ける教育など）はあるのですが、そうでない場面（生活する上での不満とか）も多くあるのだと思えるようになりました。